

笑顔

第16号

平成23年7月 <http://www.kyouninkai.jp/yasuragi/index.html>

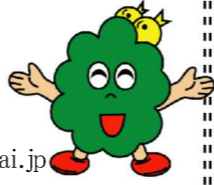
熊本市中央4地域包括支援センター

やすらぎの森

熊本市渡鹿5丁目1番37号

電話:096-375-1412

E-mail:yasuraginomori@kyouninkai.jp



時には冗談もあり、
分かりやすく説明し
ていただきました。



セラバンドを使っ
てストレッチ！



平成二十三年度、今回第一回目は、五月三十日に託麻原コミュニティセンターにて「自宅でできる高齢者の運動」運動の習慣ついていますか？」と題して、メディカルフィットネススファイン健康運動指導士の古屋篤士氏を招き、講演して頂きました。自宅で椅子に座ってできる有酸素運動や無酸素運動、柔軟体操などの実践をまじえて指導を頂き、参加者の方々に、運動の効果や大切さを実感されたのではないかと思います。

「家族介護者教室」開催中！

第五回

認知症サポーター養成講座

平成二十三年五月二十四日に帯水会・老人会の皆様を対象に認知症サポーター養成講座を開催致しました。昼食後の眠たくなる時間帯だったのですが、皆様真剣に聞いてくださいました。内容は、**認知症とは何か、認知症の人への対応方法**等話をしました。熊本県は認知症サポーターの養成者が全国一位（人口比率）の実績があります。今後はやすらぎの森の担当校区である託麻原校区と帯山西校区でもたくさんの方に認知症サポーターになっていただきたいと思います。受講希望がありましたらやすらぎの森の牛島にご連絡下さい。すぐに対応いたします。

オレンジを手に入
れ、チーズ！！



高齢者の方々を取り巻く環境では、体の機能の低下や認知症の進行による生活状況の悪化や、介護疲れから生じる高齢者虐待などが発生する可能性があります。こういった状況では、早期に発見されることで対処が可能なものが多くある一方で、残念なことに、このような問題を抱える方々の中には発見が遅れ、その解決が困難になる場合があります。

地域の高齢者の方がこのような状況に陥ることなく、住みなれた地域で尊厳ある暮らしを続けていくためには、**早い段階で問題の発生を発見し対応を行うための継続的な見守り体制**を作っていくことが必要であるといわれています。

この事業は高齢者の実態調査と関係機関との連携を通じて、このような見守り体制を作っていくことを目的とします。平成二十三年度においては見守り体制構築の基礎調査として、**六十五歳以上の高齢者の方々の実態把握**をさせていただきました。

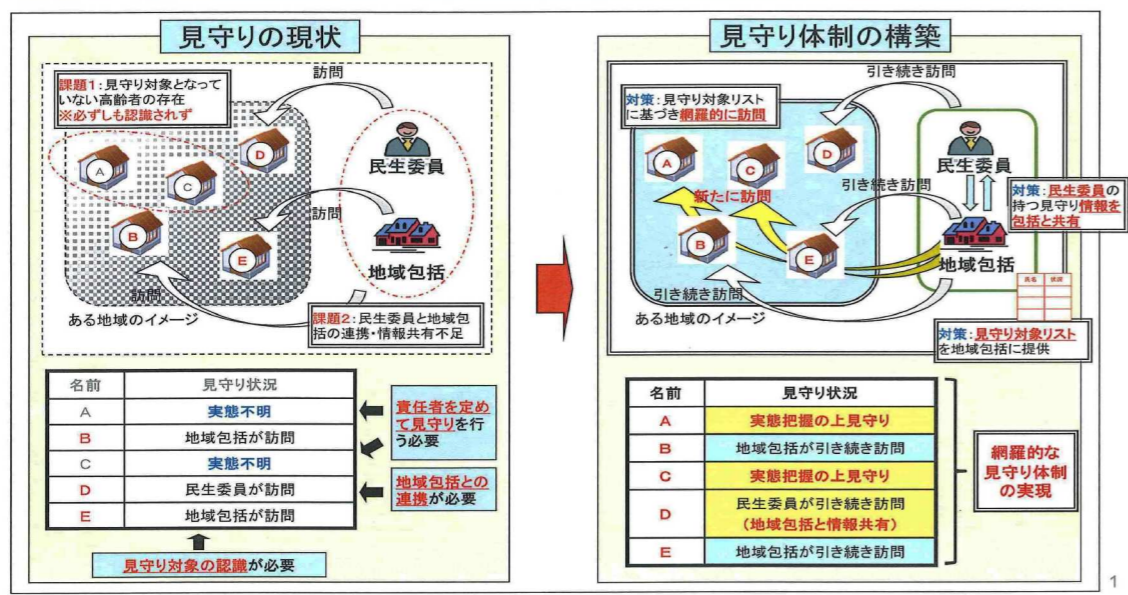
そして、平成二十四年度においては実態把握業務によって得られた高齢者の方々の情報をもとに、**継続的に見守り**を行っていくことになっております。

やすらぎの森ではこの調査をさせていただくために、今年の六月から新規の職員を採用しました。職員名は、山下（女性）と申します。お家へお邪魔することもあると思います。その時は宜しくお願致します。

（センター長 那須久史）

地域力を活用した高齢者の見守り体制の充実①

○ 昨年の不在高齢者問題を踏まえ、地域ケアの前提として、高齢者の網羅的な見守り体制を新たに整備。（23年度は実態把握。課題等を改善した上で24年度より本格実施）



六月から地域包括支援センターに入職しました、山下久美子です。まだまだ至らないところだらけですが、一日でも早く地域の方々のお役に立てるように頑張りたいと思っています。主に**高齢者見守り事業の担当**をします。よろしくお願致します。



★編集後記★
毎日暑い日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか？私は暑さに負けず自転車で頑張っております。さて、今回の笑顔は地域連携をテーマに福祉推進委員の方や熊本市社協の方からのコメント等を中心に掲載致しました。東日本震災の影響で改めて地域力が問われる時代となってきました。今後もやすらぎの森では、託麻原・帯山西校区の地域力を高めるために尽力致します。
(牛島太一郎)

新しい職員が増えました

地域の福祉活動をしていただく方々

福祉推進委員の活動紹介

私達、託麻原校区一四町内の福祉推進委員のメンバーは、四十歳代から七十歳代までの四名です。

主な活動は、二カ月に一回ある町内の仲良し健康サロンのお手伝いや、日常生活での安否確認です。

仲良し健康サロンでは、年配の方にお料理を教えてくださいながら、一緒に作ってサロンでいただいたり、地域の包括支援センターの方のお話を聞いたり、一緒に体操やゲームをしたりして過ごしています。その他にも、春は手作り弁当でお花見をしたり、秋は敬老のお祝いやお茶の配布のお手伝いを行っております。

活動を通して年配の方々とお話して感じるのには、皆さん明るく仲が良いことです。笑い声が絶えず、前向きで人の話を真剣に聞かれる方は、若々しく年齢差を感じません。

遠くの会場である会には、なかなか足が向かない方にも気軽に、無理せずそれぞれのペースに合わせて参加できる『縁側サロン』を通して地域の皆さんのネットワーク作りや民生委員への橋渡しが出来ると活動していきたいと思えます。

託麻原校区十四町内

三角 きぬ子



福祉協力委員として

私達福祉協力委員は、各町内ごと十数名づつ計六十四名が登録され、帯西社会福祉協議会を母体とし、諸行事に参加・協力しています。主な行事活動は、先ず毎月第二火曜「ふれあいランチ」の配食のお手伝いです。平成八年より一人暮らし及び高齢者世帯の訪問として取り上げ、現在まで継続されています。

次に第三木曜日の子育て支援です。乳幼児を連れて参加されるお母様方と対話したり、赤ちゃんを抱っこしたり、楽しみのひと時でもあります。

大行事としては毎年十二月の第二土曜に、青少協・社協による餅つき、豚汁大会があります。もち米百キロ、豚汁七百食分が用意されますが、前日は豚汁の材料の切り込み、協力員の軽快な包丁さばきの音で活気が溢れます。寒い中の行事ですが、子ども達の笑顔とお年寄りの方々の感謝の言葉で、心も身体も温かくなります。

ボランティアとは、日常小さなことからできるものです。私共福祉協力委員は、そのことを自覚し、微々たる力ですが明るい社会に貢献できるよう頑張りたいと思えます。

帯山西校区 原田 初枝



地域のネットワークを作って頂いてます

託麻原校区は私の先生

私が託麻原校区を身近に感じたのは四年前です。平成十九年に地域福祉の課題を掴む社会調査の対象地域のひとつであったからです。この時から、『都市部のなかの「過疎」問題』をどのように考えるか、を関心事にしています。一つの自治体に比肩する託麻原で「過疎問題」？と思われるかもしれませんが、マンション・アパートの増加によって人口・世帯数は増えていますが、その入居者とのつながり、住民同士のつながり、交流というものは少なからず乏しくなったと思っている住民の意見も強いように思えたからです。「孤立・無縁社会」という言葉が使われていますが、その根底に何があるかを正しく知る・聞く・学ぶことが託麻原校区の展望を示せるための出発点だと思っています。一見、遠回りのような取り組みですが、これが一番の近道である事を信じて、町内会長や民生委員、老人クラブ、福祉推進委員の皆さんとの心のこもった交流を続けていきたいと思えます。

熊本市社会福祉協議会

上田 浩之



熊本市社会福祉協議会

大瀧 健一朗



帯山西校区においては、昨年十一月に地域住民の方々と二回座談会を開催いたしました。これは、地域住民の方々から出た意見（課題）を基に、方向性（計画）をつくっていくというもので、おかげさまで、とても多くの生きた声が集まり、より帯山西校区の特徴・課題が浮かび上がってきました。これらは、非常にやっかいで、高血圧のように、潜在的に、そして、確実に我々に寄りかかっています。閉じこもりがちな高齢者がいる、など何となく気付いている事について、ちょっとした行動に踏み出す（知らせる、など）。それだけで、本当に住みやすい「おびにし」校区になるのではないのでしょうか。帯山西校区は、それが出来る校区だと思えます。そのため、計画（方向性）を地域団体の方々と一緒にまとめましたが、その中から、どのような事が出来るのか、を一緒に考えて考え、実行する地域住民の皆さまの支援をしていきたいと考えています。宜しくお願い致します。